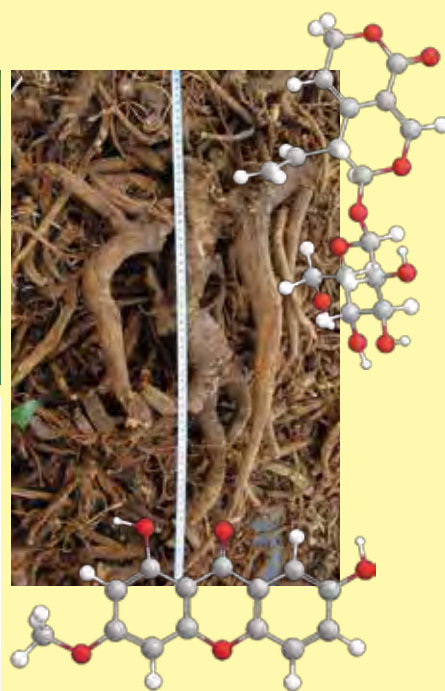


# 和漢医薬学総合研究所年報

富 山 大 学

第 46 卷 2019 年



Annual Report  
Institute of Natural Medicine  
University of Toyama  
Vol. 46, 2019

# 和漢医薬学総合研究所年報

富 山 大 学

第 46 卷 2019 年

Annual Report of Institute of Natural Medicine  
University of Toyama Vol. 46, 2019

富 山 大 学

和漢医薬学総合研究所

#### 表紙の写真

リンドウ科の *Gentiana lutea* Linné, ゲンチアナ, gentiopicroside, gentisin  
(フランスの中央高地にて, 2014年7月26日, 小松かつ子撮影)

この植物はヨーロッパで最も古くから知られている薬草で、『マテリア・メディカ (ギリシャ本草)』に、根には暖め収斂する効果があり、肝臓病や胃病の患者を救うと記されている。根及び根茎を多少発効させて乾燥したものがゲンチアナで、日本薬局方にも収載され、胃腸薬の配合剤として繁用される。同類生薬には、*G. scabra* Bunge などに由来する竜胆、*G. crassicaulis* Duthie ex Burkill, *G. macrophylla* Pallas などに由来する秦艽があり、ともに苦味健胃薬として応用され、セコイリド配糖体の gentiopicroside を主成分とするが、ゲンチアナは gentisin などのキサントンを比較的多く含有することで特徴付けられる。ヨーロッパでは食欲増進や消化不良などの治療に内服するほか、リキュールの原料にもされる。